

愛媛医療生活協同組合

愛媛生協病院

〒791-1102 松山市来住町1091-1
 [TEL] 089-976-7001 [FAX] 089-976-7029
<https://www.e-seikyo-hp.jp/index.php/>

応募連絡先

担当部署：総務課 臨床研修センター 担当者：大西 美和
 ✉ m-onishi@ehime-med.org

教育×経験×地域×多職種＝総合的成長!!

愛媛生協病院は88床の小病院ですが、無差別・平等に「いつでも、どこでも安心して医療が受けられる」病院を目指して、内科・家庭医療科、外科、整形外科、小児科、精神科・心療内科の常勤医を有し、松山市の二次救急輸送病院として急性期医療も担いながら、こころと身体を総合的に診る医療を行っています。また当院は医療生協が運営しており、地域の組合員さんとともにまちづくりや健診活動・予防活動を行っているのが他の病院にはない魅力です。2009年から卒後臨床研修評価機構の認定を受け、良質な研修を行っています。現在も複数名の初期研修医が地域に根差した医療・福祉活動を、学んでいます。地域とともに総合的に成長したいと望まれる方々の参加を期待します。

● 病院データ

病床数	医師数(研修医含む)	初期研修医数	指導医数	外来患者数(1日平均)
88床	14人	3人	12人	262人
入院患者数(1日平均)	救急外来患者数(年間件数)	救急車搬送患者数(年間件数)	年間手術数	病床稼働率
81人	4,245人	1,569人	489件	91.8%

[開設年] 昭和61年4月1日
 [開設者] 今村 高暢
 [院長] 今村 高暢
 [標榜科] 内科(消化器内科・循環器内科・呼吸器内科)
 外科・大腸肛門科/小児科・アレルギー科
 整形外科(リハビリテーション科・リウマチ科)
 精神科・心療内科



研修はチームワークで乗り切る!



研修医がリーダーとなり、病棟急変時シミュレーション研修を年2回行います。



【電車】伊予鉄横河原線「久米駅」より徒歩20分



メッセージ

○ 院長



院長
今村 高暢
(愛媛大学卒)

愛媛生協病院は「患者の立場に立って親切でよい医療」「いつでもどこでも安心して、医療・福祉が受けられる」ことを目指しています。当院の総合基礎研修プログラムで育てたいのは、「医師としての基本的価値観と基本的な診療能力を備えた愛媛の医者」です。知識・技術・態度・情報収集力・総合的判断力を身に付け、よくある病気や外傷等にきちんと対応でき、研修修了後にはどの分野に進んでも通用できる医師を育てます。

○ 指導医・プログラム責任者



外科部長
塚本 尚文
(愛媛大学卒)

当院の研修はもともと内科を中心とした総合基礎研修を基盤として研修を行ってきました。その礎をもとに初期研修を展開しています。実際の研修では指導医・上級医のもとで「担当医」として診療にあたり、ひとつの医局の中で科の垣根を超えた研修を提供します。患者さんの疾患だけではなく、生活背景やライフプランに沿った医療を、病棟、外来などを通じ実際に体験し地域の第一線医療機関の役割を体感してもらいます。医師を始めとした病院スタッフは研修医を大事にし、地域の組合員さんの力も借りながら基本的臨床能力と主治医機能、生涯学習の基礎を身に付けられます。小さな病院での研修ですが自由度も高いやりがいのある研修を提供します。

● プログラムの目的・特徴

目的

1. 当プログラムは、研修の導入時期は内科病棟における総合診療方式での研修から開始し、担当した症例を通して、問題解決能力や主治医機能を身につけることを重視する。患者が抱える問題を、身体的・心理的にはもちろん、生活や社会背景をも含めて受け止める事ができる力を養う。
2. 一般診療においては、頻繁に関わる疾病または負傷に適切に対応できる基本的な診療能力(知識・技術・態度・情報収集力・総合的判断力)を身につける。
3. チームスタッフや地域住民と共に、健康で暮らしやすいまちづくりに取り組んでいける、プライマリヘルスケア医を養成する。
4. 院内の全職員が研修の成功へ向けて、積極的に関わり、責任を持って到達目標を達成する。

◇ 心強い3つのサポート

特徴

- ① 研修医の希望へサポート!
研修医の意見に積極的に耳を傾け、一緒に研修スケジュールを考えます。手技や症例など、2年間でプログラムが修了できるよう責任を持って対応します。研修修了後の進路は本人が自由に選択・決定できます。
- ② 重層的な体制で研修をサポート!
指導医と完全マンツーマンの指導体制で、しっかりとした研修を受けることができます。医局はひとつで全科共有です。各科・指導医間の垣根は低く、いつでも相談できる環境です。多職種との距離も近く、全職員が指導者として研修に関わります。
- ③ 協力的な病院・施設が研修をサポート!
診療所から大学病院までの幅広いフィールドがあり、すべての病院・施設での研修の体制が整っています。研修先での宿泊費は院所が負担します。

● 研修スケジュール

	1~4週	5~8週	9~12週	13~16週	17~20週	21~24週	25~28週	29~32週	33~36週	37~40週	41~44週	45~48週	49~52週
1年次	オリエンテーション		内科				救急科	整形外科		小児科		外科	精神科
	当院										外部医療機関		当院
2年次	1~4週	5~8週	9~12週	13~16週	17~20週	21~24週	25~28週	29~32週	33~36週	37~40週	41~44週	45~48週	49~52週
	精神科	内科	救急科	産婦人科	外科	選択研修	地域医療研修	選択研修	外部医療機関	当院又は外部医療機関	外部医療機関	当院	

初期のオリエンテーション期間を1か月とし、患者安全、医療安全、感染管理等の研修、他部署と病棟看護業務の経験を通して、院内業務の全容を理解します。精神科・産婦人科・地域医療等の分野は協力的な研修病院で行います。選択研修は、愛媛生協病院、愛媛大学医学部附属病院、松山市保健所から選択できます。

必修分野	週数	その他の分野及び選択研修など
内科	24週	◇ 整形外科研修 愛媛生協病院の整形外科では外傷からスポーツ障害、骨粗鬆症、慢性疾患など、指導医が極めた専門分野を持っており、基本的な整形外科の手技が習得できます。手術は外傷や変性疾患など多岐にわたり、2023年は約460件の手術を行いました。指導医とのカンファレンスを通じ、疾患の学習、治療方針の決定に関わり、多くの手技を経験します。高齢者の骨折も多く、退院後の生活背景を考慮した経験ができます。
救急	12週	◇ 外来研修 内科外来・小児科外来で研修し、プライマリ・ケア医に必要な一般外来における知識・技術・態度が習得できます。主に初診患者の診察を行い、多くのcommon diseaseを経験できます。また、継続して外来を行うことで、慢性疾患患者の継続診察や担当患者の退院後の外来診察が経験できます。
外科	8(〜4)週	
小児科	8(〜4)週	
産婦人科	8(〜4)週	

● 募集要項

[予定人数] 3名
 [応募締切] 2024年7月～2025年3月(定員に達した時点で終了)
 [選考試験] 令和6年8月
 [応募書類] 履歴書、卒業(見込み)証明書、成績証明書
 [研修手当] 1年次:約500万円/年 2年次:約550万円/年
 ※賞与込、手当別
 時間外手当:当院規程により支給あり
 宿日直手当:当院規程により支給あり
 通勤手当:月額30,000円を限度として支給
 住宅手当:月額13,000円を限度として支給
 家族手当:当院規程により支給あり

[学会等] 年2回まで旅費支給など(年額20万円を上限)
 [宿舎] なし
 [院内保育所] 敷地内にあり 8時20分～18時
 [休暇] 日曜・祝祭日、隔週土曜 夏期休暇8/15、年末年始休暇あり
 リフレッシュ休暇3日
 有給休暇 1年次10日、2年次11日(採用3ヶ月経過後)
 [保険] 健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、
 医師賠償保険(病院にて加入)
 [その他] 奨学金制度あり
 サークル活動あり(野球、フットサル、テニス等)
 医療費還付制度あり
 フィットネスコア割引料金にて利用

○ 研修医



初期研修医2年目
山崎 典子
(愛媛大学卒)

当院の初期研修では、ひとりの患者さんをじっくりと診る力を育てる事ができます。疾患の治療のみならず、様々な生活の困りごとに寄り添い、多職種と協働して対処します。また、地域の方々や組合員さんを対象とした健康づくり活動や学習会を通して、地域の健康を支える医療人として成長する事ができます。小さな病院だから経験症例数が少ないのでは?と心配するかもしれませんが、初診外来や救急初療の時間が多く設けられており、よくみる疾患や外傷についての基本的な診療能力は十分に身につける事ができます。研修医は少人数のためプログラムの自由度も高く、個人の希望や臨床能力に応じた「あなただけの初期臨床研修」が受けられます。

地域住民がまず訪れる病院なので、様々な疾患や病態に対応できる力を身につけるために、教育に力をいれています。毎日のベッドサイドや振り返りでの学びはもちろん、充実したレクチャー、画像カンファレンス、身体診察教育、エコー研修など様々な学習の場を提供しています。毎月、中四国の関連研修病院と教育カンファレンスを行い、臨床推論の力を磨きます。指導医の一人は東京大学大学院の医学教育博士であり、最新の医学教育研究の成果をもとにVSAQやmini-CEXといった成長につながるフィードバックを体系的に行います。学びの発表を積極的に応援しており、多くの研修医が2年間のうちにケースレポートを国際雑誌に掲載しています。

